關西大學新報

発行所 大阪市大淀区長柄中通 関西大学天六学舎内
関西大学新報社
電話 淀川(39)2072番
発行人 中山 巌
編集人 徳田良一
(定価一部十円)

古本全般売買
天牛本店
南区道頓堀中座前
電話(26)二七五八番

執行委員会再び総辞職

写真は学生大会々場、全学連からの脱退に賛成の挙手をする学生たち

全学連から脱退を決議

学友会運営まだ正常化せず

＝秋期学生大会＝

本年度秋学学生大会は、十月十三日午後七時十分より、三十六教室で開かれた。

大会は開会当初から混乱の様相を呈していたが、全学連脱退の緊急動議の可決によって、執行部は一度は撤回した総辞職を再度決意して、またまた中途で流会となった。

今大会では、活動方針案と予算案は承認されているので、次期執行部に引きつがれる。自治委員会で新たな執行部が選出されるまで、今までの執行部が、残務整理委員会として運営を代行する。

大会は七時十分、有馬潤の司会で開始された。

冒頭、議長団の選出方法で、司会者一任と選挙の二案が出されて、淺田、金沢の三君が選ばれた。

七時三十分議題にはいり、まず、春の学生大会後に組織された統一執行部を満場の拍手で承認した。

次に、活動方針案と予算案を一括して提案説明し、それに加えて、学生大会の流会を宣言してしまった。このため大会運営はやくも暗しょうにぶつかることになった。流会宣言については、委員長の暴言だという出席者の反対意見も強く、執行部が折れて、予算案の先議と規約改正案を最後にまわすことに同意した。

その後は予算案、決算報告、監査委員選挙など、まずまずスムースに議事は進められた。

監査委員会の開票をまって、最終議題の規約改正案の提案説明に立ったとき、商工の向山君が、とうとしたとき、全学連脱退の緊急動議が提出された。議長団はこれをとりあげ、討議にはいろうとしたが執行委員長は、この動機が遅過ぎれば執行部は活動の根拠を失うことになるとして、その撤回を再三にわたって要求した。

しかしこの点で双方の妥協はできず、議長は動議に対する賛否の意思を求め、討論がなされた。採決の結果は、絶対多数で全学連脱退の動議は可決された。

委員長は改めて議長席から執行部総辞職を宣言し、十時四十五分、大会は流会のため幕を閉じた。

予算活動方針は決まる

次の議題にはいるまえに、議事運営に関する提案として、予算審議を活動方針や規約審議の先に行なってほしいとの意見が出された。しかし執行部としては、活動方針を決めないで予算を先に決めてしまうことはできないとして、強く反対した。議長団は、この提案をとりあげたため、委員長は執行部の総辞職を表明し、それに加えて、学生大会の流会を宣言してしまった。このため大会運営はやくも暗しょうにぶつかることになった。流会宣言については、委員長の暴言だという出席者の反対意見も強く、執行部が折れて、予算案の先議と規約改正案を最後にまわすことに同意した。

その後は予算案、決算報告、監査委員選挙など、まずまずスムースに議事は進められた。

監査委員会の開票をまって、最終議題の規約改正案の提案説明に立ったとき、商工の向山君が、とうとしたとき、全学連脱退の緊急動議が提出された。議長団はこれをとりあげ、討議にはいろうとしたが執行委員長は、この動機が遅過ぎれば執行部は活動の根拠を失うことになるとして、その撤回を再三にわたって要求した。

しかしこの点で双方の妥協はできず、議長は動議に対する賛否の意思を求め、討論がなされた。採決の結果は、絶対多数で全学連脱退の動議は可決された。

委員長は改めて議長席から執行部総辞職を宣言し、十時四十五分、大会は流会のため幕を閉じた。

根強い対立の原因

事態収拾は双方に責任

〔解説〕

学生大会は、まったく混乱し、学友会活動は、当分変則的な形で行なわれざるを得ない事態となった。こうした混乱の原因は、春の大会でものべられていたとおり、規約改正と、全学連脱退の問題をめぐって各育会、応援団関係者と、執行部、学研グループとの対立にあった。

今大会では、規約問題は流会のため討議にはかけられなかったが、とにかくこの二つの点で双方の見解は、全く対照的になっている。

全学連などをめぐって、部分的には共通する考えも、基本的な点でやはりその対立はかなり深いものがある。

先ず規約の問題では、現行のものに不備が多いということでは双方同意見だが、執行部の改正案とはどうしても折合いがつかなかった。改正の中心である代議員制に対して、反対派は、現行のままでも、努力すれば学生大会は正常な状態にできることができるとして、絶対反対だった。

全学連問題では、全学連中執の活動は必ずしも正しいものではないという点では、ある程度認めていた。しかし、執行部は、たかだか全学連の組織の中にあって、彼らの間違った運動を是正し、全国の学生と共に正しい学生運動を展開してゆくかということである。

これに対して、体育、応援団では方針の異なる組織の中にいる必要はなく、ただちに脱退して、学友会活動は学問問題に中心をおくべきだと主張した。

執行部としては、現在全学連内部で運動の正常化に努力している矢先でもあり、脱退決議は満場一致だったろう。

全学連に対する態度として、どちらが正しいかということは、一般学生の冷静な判断に、まったくまかせるしかない。

歴史論などに通じて、全学連の反主流勢力として、やっと成果をあげつつあったことなどもあり、もうしばらく情勢をみてから決めるべきことになったようにおもわれる。

新しい執行部の誕生までには、かなりの時間を必要とするだろうが、今後、体育会、応援団関係者の責任が、一段と大きくなってくることは間違いあるまい。全学連脱退を実現し、規約改正を流しに追い込んだ現在、自分たちの主張が、単なる反対のための反対でなかったことを示すためには、全学生を納得させるだけの、具体的な運動方針を打ち出さなければならない。今回の脱退は、時にわれわれ一人ひとりに、責任を問うものであった。

各クラブ団体等との連行いを深め、一日も早く学内の混乱を、平和の雰囲気に変換するために、真のヒューマニズムを基調とする商業誌が存在するように、われわれは、それ以上、商業誌の特徴を、見守れればならない。

一方、学生新聞の特徴とするところは、商業誌と異り、学生の立場からの不当な圧迫をさけ、何ものにも束縛されない自由な論陣を張ることは学生新聞のもっとも誇るべきところである。

また、その対象とするところも、学生という特定の階層であり、その問題意識、理解力もほぼ共通である。

そのことは、まず一面、大学があらゆる社会において、高度の知識を、それに対する高度の理解を、ある程度、期待されていることに、学生新聞のもっとも誇るべきところである。

学生新聞としての使命の第二番目は、世界平和のためという理想にのっとり、内外のニュースの報道である。

商業誌の日刊とくらべ、われわれ学生新聞のほとんどが月刊誌であり、あるいは意味においてはニュースの新鮮さが失われてゆくのはやむを得ないものであるが、しかし単なる年中の報道ではなく、そのニュースの裏に秘められているものをみきわめ、そこに主張と批判とを加え、ものごとを正しい眼でみつめることは、学生ともに共通する。

そしてこの報道も学生にとっては、役割を十分には満たすものであると考える。

このことは学生の各商業誌の記事内容が、主として興味本位になりがちなのに、ニュースの本質をみきわめることなく、表面的な人物の動き、あるいはスキャンダルをもこれの面白ってはやされている感がある。

また"学生論説"についての新聞論調をみるとき、現行のアメリカ資本主義との提携の強化を、冷戦からの解放の動きに逆行するかの態度をとって、新聞の精神を守る"中立"ということは、ともすれば二方的な商業誌感覚上についての"無責任感覚"の問題が、あるいは、このことに被害者意識の陰の了承のもとに、"責任"との取引もあったかに感じられる。中立という名にかくれ、あいまいな態度をとることなく、時代による社会を、もっと世界平和に貢献するため、真のヒューマニズムを基調とする商業誌が存在するように、われわれは、それ以上、商業誌の特徴を、見守れればならず、そのため安易な妥協への道に進むことも考えられる。

このことは学生の各商業誌の記事内容が、主として興味本位になりがちなのに、ニュースの本質をみきわめることなく、表面的な人物の動き、あるいはスキャンダルをもこれの面白ってはやされている感がある。

また"学生論説"についての新聞論調をみるとき、現行のアメリカ資本主義との提携の強化を、冷戦からの解放の動きに逆行するかの態度をとって、新聞の精神を守る"中立"ということは、ともすれば二方的な商業誌感覚上についての"無責任感覚"の問題が、あるいは、このことに被害者意識の陰の了承のもとに、"責任"との取引もあったかに感じられる。中立という名にかくれ、あいまいな態度をとることなく、時代による社会を、もっと世界平和に貢献するため、真のヒューマニズムを基調とする商業誌が存在するように、われわれは、それ以上、商業誌の特徴を、見守れればならず、そのため安易な妥協への道に進むことも考えられる。

論説 学生新聞の使命

十月上旬には"新聞週間"が開かれ、一般の各紙ではそれぞれ"新聞の使命"などの問題をとりあげ、さかんに論議をつくしてきた。現代の社会において、新聞をはじめとするラジオ、テレビなどのマス・コミが世論に働きかける影響力がいかに大きなものであるかはいまさらのべる必要もないが、マス・コミが一歩その歩む道を誤ると、とんでもない事態が起るのであり、われわれはたえずこの動向をみまもっておかねばならない。

ここで、学生新聞および一般商業誌についてそのあり方を考えてみたい。

われわれ学生新聞の基本的な相違は、商業新聞が一つの"商品"であり、あくまでも営利目的としているのにたいし、学生新聞に課せられた目的としたいところにある。

商業新聞が一つの"商品"であり、営利目的としているのにたいし、学生新聞に課せられた目的としたいところにある。

商業新聞は一つの企業体であるとき、資本家にあるいは経営者にたいし迎合しなければならず、そのため安易な妥協へ

学生大会は正しかったか

秋の学生大会の場合、春の大会の流会に引きつづいて、中途で流会となってしまったことは、誠に遺憾千万である。

大会の名によって、全学連脱退が決議されたわけであるが、現在全学連の中にあって、その間違った運動の是非は、ともかくとして、この学生大会で提出された動議は、はたして正しいものであったろうか。大会の名によって、全学連脱退が決議されたわけであるが、現在全学連の中にあって、その間違った運動の是非は、ともかくとして、この学生大会で提出された動議は、はたして正しいものであったろうか。

例えば、現在の全学連の方針に同意しないからとして、その撤回を求めたことは、彼らの運動に対して、まったく抵抗できない無責任なことであるとも言えるであろう。

学生大会は、学生の意思を代表するものであるとすれば、学生らしい態度として、学生の意思を代表するものであるとすれば、学生大会の様な混乱をくりかえし、長期にわたる学友会活動の停滞に対して、対立の当事者達が、どの様にして、その責任を果してゆくかということである。

二部という特殊性から考えて、その収拾には困難の多いことは認めるが、それではすまされない事態にはいっている。両者の考え方の底には、かなり大きい開きがあるにしても、その中から一つの共通の場を導いてゆくだけの常識と冷静さがなくてはならない。

今度の場合も、当事者同志の間で、事前の交渉がもたれていたらもっと変った結果になっていたかもわからない。

この点で、執行部の努力も充分でなかったけれど、彼の大会の状況を思い浮べるとき、もっと具体的に、反対派の活動家とも直接の話し合いをもつべきであった。公

学生大会は正しかったか

秋の学生大会の場合、春の大会の流会に引きつづいて、中途で流会となってしまったことは、誠に遺憾千万である。

大会の名によって、全学連脱退が決議されたわけであるが、現在全学連の中にあって、その間違った運動の是非は、ともかくとして、この学生大会で提出された動議は、はたして正しいものであったろうか。大会の名によって、全学連脱退が決議されたわけであるが、現在全学連の中にあって、その間違った運動の是非は、ともかくとして、この学生大会で提出された動議は、はたして正しいものであったろうか。

例えば、現在の全学連の方針に同意しないからとして、その撤回を求めたことは、彼らの運動に対して、まったく抵抗できない無責任なことであるとも言えるであろう。

学生大会は、学生の意思を代表するものであるとすれば、学生らしい態度として、学生の意思を代表するものであるとすれば、学生大会の様な混乱をくりかえし、長期にわたる学友会活動の停滞に対して、対立の当事者達が、どの様にして、その責任を果してゆくかということである。

吹奏楽部の活動始める

部員増強中の応援団

一部分であるが、楽器を整い、ブラスバンド班の活動が開始され、関西六大学リーグ戦をはじめ合同で応援に参加している。練習は毎週火・金曜日の二回、体育館でおこない、今後は一部とも協調し技術の向上をはかり、まずその成果

学友会から

△学友会では、すでに三年もまえから、四者懇談会などを通じて、校舎の改装を申入れていたが、この夏期休暇を利用してやっとその実現をみた。

三十六教室の床、椅子、照明などのやりかえをはじめ、一階、二階

各教室の床、壁の塗装、階段、便所の修理などである。各教室とも照明は厚生省基準の照度に改められた。講義の聴きにくかった十七教室、三十八教室などは、ワイヤレスマイクの使用で一段と講義が楽になった。

なお、来年度には、のこる三、四階の壁の塗りかえをはじめ、図書館の増築、学生ホールの拡張なども予定されている。△現在学友会は、伊勢湾台風に対する災害援護募金を行なっている。

今回の東海地方の被害は意外に深刻で、各方面から多くの同情が寄せられている。しかし、まだ被災者は生活に困るものが多く、自衛隊の救援出動も、義務的で地元民には不満の声も多いようだ。

記者の眼

△今期の学生大会でも、相変らず議場での努力的な姿勢が眼についた。

議長団の制止をきかず壇上にかけあがったり、議席の机をひっくり返すなど、少くとも学生のなすべきことではない。特にこうした行動が、全学連の行動本位の闘争に反対している学生によって、行なわれていたのは、どうとしたことだろうか。

民主主義のルールを無視して、目的のためには手段を選ばずといった態度は、極左的な革命主義や、暴力的行為に通ずる思想ではないだろうか。三度にわたる執行部の総辞職によって、貴重な時間の浪費を強いられる現在、もっと落ち着いて話し合える空気を作ることが必要だ。

△学生大会というえば、いつも執行部の総辞職と、全学連の問題ばかりでは、学生の学友会活動は、ますます沈滞してしまうだろう。

△今期の学生大会でも、相変らず議場での努力的な姿勢が眼についた。

議長団の制止をきかず壇上にかけあがったり、議席の机をひっくり返すなど、少くとも学生のなすべきことではない。特にこうした行動が、全学連の行動本位の闘争に反対している学生によって、行なわれていたのは、どうとしたことだろうか。

民主主義のルールを無視して、目的のためには手段を選ばずといった態度は、極左的な革命主義や、暴力的行為に通ずる思想ではないだろうか。三度にわたる執行部の総辞職によって、貴重な時間の浪費を強いられる現在、もっと落ち着いて話し合える空気を作ることが必要だ。

△学生大会というえば、いつも執行部の総辞職と、全学連の問題ばかりでは、学生の学友会活動は、ますます沈滞してしまうだろう。

絶えない暴力的空気

△今年の春、赤い羽根を胸につけるシーズンになった。その上に赤い羽根や災害救援募金が加えられているから大変だ。

お互いが助け合う精神は結構だが、どうも日本という国は、一年中募金運動の絶え間がない。

△今年の春、赤い羽根を胸につけるシーズンになった。その上に赤い羽根や災害救援募金が加えられているから大変だ。

お互いが助け合う精神は結構だが、どうも日本という国は、一年中募金運動の絶え間がない。

△今年の春、赤い羽根を胸につけるシーズンになった。その上に赤い羽根や災害救援募金が加えられているから大変だ。

お互いが助け合う精神は結構だが、どうも日本という国は、一年中募金運動の絶え間がない。

国民経済の圧迫

安保条約と学生生活

市大内海(商)
本学河崎(法)教授が講演

六月、午後六時三十分より三十六教室において市大商学部教授内海孫氏、本学法学部助教授河崎平一郎氏を迎えて、"安保条約と学生々活"について、講演会が開かれた。

両氏による講演

安保条約改定問題は今や国をあげての大問題に発展し、政治的にも、社会的にもあらゆる問題の中心になっているといっても決して過言ではないと思う。

この安保改定は"アメリカ主義的な日本の建設"という点が従来のポイントであり、資本家階級からみても、一般国民の立場からみても、あるいは学問的な思想の点からみても何一つとして取るに足りない。それぞれがいずれも国民の現金を膨大させ、大きなマイナスを生じさせるとともに国力の発展による国民経済の圧迫である。

こんで考えるべきことは日本の国力が"十両"にしかなしたことが問題であり、独立国であるから自衛力と経済的援助を外国に依頼しなくてはならないという大きな悩みがある。その悩みを解決する意味において地理的条件や資源的要素などの点について考える必要があるわけで今度の安保問題を仕方のない必然的な問題だと思う。

しかし"横綱"の地位を得るの

は困難かも知れないが、三役になることは不可能ではない。この意味から、外交により安保を改定し、その中で日本の独立を目指して進むべき道を選ぶべきことが現在の状態としては最も望みうることだと思う。

そこで政府にたいし九千万国民の幸福のために政治を動かしてほしいと要望しなくてはならないと思う。

と参加した百五十余人の学生に初実に訴え、その後、質疑応答がおこなわれ、九時三十分に閉会した。

第十回自治委員会

大会議案などを討議

学生大会前の第十回自治委員会は、十月七日七時十分より学友会会議室において開かれた。出席委員十三、委任状七でかろうじて成立、学生大会に関する問題を中心に、書記長補充、執行部の活動経過報告や、学則改正反対運動などについて討議された。特に大会議題の中で、規約の改正や学外問題と学内問題に対する運動の進め方などに議論が集中した。

前書記長民君の選挙にともなう補充の件では、この春以来学友会活動の混乱している現状や、当面する学生大会、それに続く各種行事にたえて情況とは遺憾に堪えないとの意見が多かった。

しかしこれらの問題は、学生大会の発言がもっとも強いとの意見があった。執行委員会からは、学生大会の推薦があり、それを満場一致で決定した。

つづいて空席となる総務部長には組織連絡部長の中井君、組織連絡部長には新たに自治委員から青戸君(商1)を推すことにし、部長には新たに自治委員から青戸君(商1)を推すことにし、いずれも内部動員という形で選挙を省略して、挙手による選出方法を採り、九時四十分に散会となった。

(写真は自治委員会)

学友会から

△学友会では、すでに三年もまえから、四者懇談会などを通じて、校舎の改装を申入れていたが、この夏期休暇を利用してやっとその実現をみた。

三十六教室の床、椅子、照明などのやりかえをはじめ、一階、二階

各教室の床、壁の塗装、階段、便所の修理などである。各教室とも照明は厚生省基準の照度に改められた。講義の聴きにくかった十七教室、三十八教室などは、ワイヤレスマイクの使用で一段と講義が楽になった。

なお、来年度には、のこる三、四階の壁の塗りかえをはじめ、図書館の増築、学生ホールの拡張なども予定されている。△現在学友会は、伊勢湾台風に対する災害援護募金を行なっている。

今回の東海地方の被害は意外に深刻で、各方面から多くの同情が寄せられている。しかし、まだ被災者は生活に困るものが多く、自衛隊の救援出動も、義務的で地元民には不満の声も多いようだ。

学友会から

△学友会では、すでに三年もまえから、四者懇談会などを通じて、校舎の改装を申入れていたが、この夏期休暇を利用してやっとその実現をみた。

三十六教室の床、椅子、照明などのやりかえをはじめ、一階、二階

社告

新聞社では、十月一日の総会において左記の通り役員を改選しましたのでお知らせいたします。

記

主筆 徳田良一
発行人 平山忠夫
論説委員長 平山忠夫
編集局長 渡辺五知
総務局長 川名国夫
報道部長 辻忠裕
学芸部長 南吉彦
特集部長 鉄口英雄
経理部長 山元寿男
広告部長 坂岡忠
庶務部長 高橋宰子
書記 植元綱子
監査委員 仲安孝子
監査委員 廻取功

関西大学新報社

春秋

"灯火親しむ頃"という諺がある。たしかに冬季が学生にとって一年中で最適のシーズンであり、あらゆる点において人生の成長のシーズンといっても過言ではない▼中間試験も終り一息いれているところだが、この時期を決して無意義に過ごしてはならない。学生時代の意欲と書きを充分に発揮する意味において、緑の一色に塗りつぶされた野や山に行って新鮮な空気を吸いつぱい吸いこみ、小鳥と一緒に美声をはりあげるのもよかろうが、あたりがすっかり寒冷まったころに、読書するなり、また勉強にいそしみ夜おそくまで灯火を親しむのもまた格別の味がある▼学生にとっては、まず"真理の探求"はもちろん人格の陶冶であり、何ものかを習得することである。四年間の試練の成果が実社会への土台となるものだ▼しかしながら一口に四年間といっても、その間には学内外の絶えず問題となって、諸問題と対決しながら人間的完成へと精進しなければならないのである▼たとえば学内問題である規約改正一つとりあげても、わかるように、草案が学生大会に提案され演壇は討論の結果、全学投票となりその結果多数の支持者を得たにもかかわらず、その方法に異議ありとして自紙にかえりその後公聴会を開くなどして意見の調整をはかり、再び学生大会へと、ふりだした。しかもこんどの大会でどうなるかさえ見当がつかない▼現行規約では、学生大会が最高決議機関である以上、今後の大会も慣例の学則改正によって組織されるので規約改正問題はまぐるしくこんとんとしている▼この状態から脱皮するためには、提案者である学友会本部が自分らの各パートはもちろん、一般学生の中に頭をつっこんで、何を考え何をしようとしているかをつかむことであり、そうすることが調和のとれた、より良き平和と国主的活動がなされ、そこに発展性がうまれているのである。

CHAIN BLOCK
FUJIWARA "SPEED" HIGH CLASS
大阪 二葉製作所 販売

日本で唯一の
夕刊英字新聞
ASAHI EVENING NEWS
Per Month
朝日新聞社

喫茶
果物
グリル
洋菓子
ステーションパーラー
大阪駅商店街入口
営業時間 朝6時
一夜11時まで

洋酒の専屋
とても新鮮!
とてもおいしい!
陽光をいっぱいにあびて育った果実を、そのままぼって、甘く漉くしたジュースです。
冷たい水で5倍に薄めてお飲み下さい。5倍のジュースがとれますからたいへんおトクです。
濃縮ジュースの最高峰!
トリス ジュース
オレンジ・グレープ・レモン・アップル
パイナップル・グレナデン…各300円

経営近代化のために!
株主
三戸岡道夫著
三八〇円・〒40
《経営管理全書・第48巻……第23回配本》
株主という社員の性格、株式が証券化して流通することによって、経営権と株主権の性格が次第に分離していくこと——本書はこういう実体を解明し、さらに最近問題になっている商事事項については「注」にまとめて詳述している。
作業基準書・事務指導書の管理
正木三東 千田真二著
四三〇円・〒40
《経営管理全書・第52巻……第24回配本》
近代経営において、書式や媒体を管理方式はなくてはならないものである。本書は、作業基準書と事務指導書についてはエキスパートである両氏が、理論と実際の両面から詳細に解説している。管理部門を担当する実務家の必読書。
東京・日本橋 振替東京555 日本経済新聞社

学割引下げに全学生で反対

学友会 府学連 など大鉄局に抗議

国鉄当局では、九月二十二日「十月一日より学割率引下げを実施する」という決定を抜打的に発表した。これに対して、全学連をはじめ、各自治会では、この処置は全学生の経済的な負担を増加させ、学生の学問の自由を侵害するものであるとして、強硬に抗議している。

上は国鉄関西支社前に押しかけた、関西の各大学々生、下は国鉄側代表者と会見する学生代表、右列手前から二人目は佐々木調査役。

全学連の決定にもとずき各地区の学連ごとに反対運動を強化しているが、大阪府学連でも、全国反対運動の一大拠点としたたちにその態勢に入った。本学友会でもこれに積極的に反対運動をくりひろげるとの態度をきめ、九月十九日には衝突でのピラ配布などを行い、同日午後六時より阪下夜学生の代表が大鉄局を訪ね、佐々木調査役と面会し、学割率引下の撤廃に抗議し、たちに撤回する強硬な申入れを行った。話合いは、単に要求を国鉄本社側に伝えるという程度で引きあげた。

ついて翌三十日は午後四時、関西各大学から学生約三百名が国鉄関西支社に対して引き下げ反対の示威を行った。示威隊が到着したときにはすでに支社は閉ざされ、鉄道員や警官らが中で待機していた。

国鉄当局側との面会を要求した学生代表の佐々木調査役が中に入ることを拒否したため、結局代表約三十名が中に入ることで話合いがついた。

国鉄側からは佐々木調査役が出席して、学生代表は当局に対して個人行賃撤回を申入れた。国鉄側は明確な解答をせず、次回の会談においても学生は約束を出来ないという態度だったが、十月二日に佐々木調査役が個人的資格で会見することを約束したのみで、結論に達らないまま六時会談を打切った。示威隊は帰前で「学割率の引下げと二重の反動政策反対」の決議を採択して解散した。

その後行われた二百十日の会談においても当局から明確な解答を得るには至っていない。

廊下画園

今日世人たちの眼にうつる外界、それは十九世紀までの人々が感じたものとは比較にならないほどの豊富な情報を含んでいる。そのうちで、「西洋名作展」が開催されている十日間に、数多くの十一世紀の絵画の展示が、私たちの眼に新しい刺激を与えたことは、誰しも認めるところである。

色彩の進歩により、明朝枝葉の革命により、染色の発展により、私たちの生活環境の色彩化は急速に進みつつある。もはや色彩を無視した生活は私たちには考えられなくなっている。

古く私たちの先人、ゲーテが当時の画家の色彩にたいする知識の幼稚さに研究の必要を感じ、アルブスの自然に感動し、この中で彼の色彩論はじめられた。

ゲーテの色彩論はさておき、さて今年もさわやかな秋が都会のすみずみにまで、経済的に既に取り上げられている。既に、ガス等の値上げの措置に抗議し、たちに撤回する強硬な申入れを行った。話合いは、単に要求を国鉄本社側に伝えるという程度で引きあげた。

学園

色彩の研究は、学生の生活を豊かにするために、絵画の鑑賞は、学生の生活に与えるものは大きい。それは、学生の生活を豊かにするために、絵画の鑑賞は、学生の生活に与えるものは大きい。それは、学生の生活を豊かにするために、絵画の鑑賞は、学生の生活に与えるものは大きい。それは、学生の生活を豊かにするために、絵画の鑑賞は、学生の生活に与えるものは大きい。

独占資本にのみ奉仕

来年度には定期値上げも？

—解説—

今回国鉄が発表したところによると「従来の一般運賃のみ五割引となっている学割は十日一日から百分以上の部分についてのみ五割引とし、パス、船舶の適用距離もこれに合せて百キロ以上の場合に二割引にする」というものである。こうして得られる増収が約八億円と見込まれて居り、学生側にとっては相対的にこれだけの経済的負担になってくるわけであって、反対も当然のことであろう。

国鉄では、まえもって指摘されている赤字経営に悩み、その上減価問題になっている新幹線の計画、世界銀行からの借款など問題が多く経営合理化に腐心だったが、今回の学割率の引下げに続き、更に来年度中には通勤、通学定期も値上げしたいとの意図をもっている。これによって、経営の合理化と、施設の近代化を実現しようというのである。しかし、こうした一連の値上げ方式による運営が、他へ与える経済的影響や、政治的社会問題を考えたとき、決して国鉄経営だけに眼られた単純な問題ではないことがわかる。

まず、経済的には既に取り上げられている、電気、ガス等の値上げは、一般消費物価の上昇を実施し、今回の値上げは、物価の値上げを実施し、今回の値上げは、物価の値上げを実施し、今回の値上げは、物価の値上げを